

公益社団法人 福岡県人権研究所の本

関儀久 著 (三〇〇〇円+税)
感染症と部落問題
近代都市のコロナ体験

姿を変えて鏡を見れば、見慣れぬ姿が映し出されるように、わたしたちの日常が変われば、見慣れぬ歴史が姿をあらわす。多くの人々が「コロナ差別」に関心を抱くいまだからこそ、私は感染症対策と部落問題のかかわりを歴史の鏡に映し出したいと思う。 — 「序」より抜粋 —

木村 政伸 著 (二一〇〇円+税)

教室の灯は希望の灯
自主夜間中学 福岡 よみかき教室』の二五年

二五年の歴史をもつ「福岡・よみかき教室」。そこに集まったさまざまな人たちの姿を通して、学ぶとは何なのか、学校とは何なのか、をあらためて考えさせてくれる一冊。

久米 祐子 著 (二〇〇〇円+税)
子どもから障害児を「分けない教育」の戦後史
インクルーシブ教育とは

ここに、もう一つの戦後教育史があった！第二次世界大戦後から一九八〇年代までの、子どもから障害児を「分けない教育」実践が開始された時期及び、その方法や名称が生まれた経過を明らかにする。

新谷 恭明 著 (二八〇〇円+税)
校則なんて大嫌い！
学校文化史のおきみやげ

『学校は軍隊に似ている―学校文化史のささやき―』、『なぜ中学生は煙草を吸ってはいけないの―学校文化史の言い分―』に続く、学校文化史シリーズ第三弾。いま、学校を変えていくのは教育史だ。

高石 伸人 著 (八〇〇〇円+税)
感染症と差別
感染症が炙り出した分断と差別

NPO法人ちくほう共学舎「虫の家」事務局長として、「障害」者支援活動やハンセン病療養所入所者との交流活動等を進めている著者が、識者の言葉を引用しながら、分断と差別の問題について提起している。

園田 久子 編 (二〇〇〇円+税)
絵本のちの花が生まれ出た!!
実践事例集

寛政五人衆の史実を元にした絵本『いのちの花』を出版して二〇年。この厳しい人権状況の中で、私たちの人権認識を深め、豊かな人権状況を切り拓くために、新たに教育現場での活用本をつくりました。